

ふれあい

No. 8

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

全校集会で子どもたちになぞなぞを出しました。7つのヒントから、ある「道具」を考えてもらったのです。読者の皆さんも考えてみてください。

ヒント1：世界中の人が、いつでも、どこでも使えます。大人でも子どもでも使えます。

ヒント2：使うのが上手だと、とてもよい人だと思ってもらえます。

また、使うのが上手だと、人生が変わると言われるくらい幸せになれます。

ヒント3：上手に使う人は、目を使います。もっと上手な人は、笑顔になります。

ヒント4：上手に使えない人は、その「道具」が小さいです。

ヒント5：上手に使えない人は、夢を叶えられないことがあります。

ヒント6：春日小学校にも、この「道具」を上手に使う人がいます。

でも、上手に使えないでいる人が、まだまだ多いです。

ヒント7：仲よくなるきっかけを作ることができる「道具」です。

だから、上手に使えない人は、仲よくしたくないのだと思われてしまいます。

さて、この「道具」が何だか分かりましたでしょうか？そして、皆さんは、この「道具」を上手に使うことができますか？

答えは、「あいさつ」です。「一挨拶（いちあい いちさつ）」という言葉からできたとわれ、挨拶は心を開くこと、挨拶は心を近付けることを意味するそうです。挨拶は人の心を結び付け「よりよく かかわる」ために重要な働きをする道具となるのです。

1学期に実施した児童アンケートでは、「明るく挨拶をしたり、元気に返事をしたりしている」の項目で、肯定的な回答をした子どもは88%（はい56%、どちらかと言えばはい32%）でした。しかし、私が毎朝、南門、北門、駐車場などに立って挨拶をしていると、明るい挨拶と感ずることができる子どもは30%くらいです。黙って通り過ぎる子もいます。目を合わせるだけの子もいます。88%の子どもが肯定的に回答しているということは、目を合わせるだけでも明るい挨拶をしているつもりになっているということです。

ご家庭で、お子さんはしっかりと声を出して「おはよう」と挨拶していますでしょうか。また、保護者の皆さんも家族に挨拶をしていらっしゃいますか。おそらく、お子さんに挨拶をする習慣を身に付けさせたいと考えている方は、積極的に挨拶をしていることでしょう。では、なぜお子さんに挨拶の習慣を身に付けさせたいのでしょうか。それは、お子さんが大人になっても、社会の中で他者と上手にかかわり、幸せに生きてほしいという願いがあるからだと考えます。子どもたちになぞなぞで話したように、挨拶をすることにより相手からの印象がよくなり、人間関係もよくなる確率が高いことを大人は経験によって知っています。また、常識のある人という評価を得られることを学んでいます。ですから、子どもたちが自然に挨拶をするようになって、周りの人々とよいかかわりをもって生きてほしいと願うわけです。しかし、子どもたちは、そのような必要性を感じていませんから、なかなか挨拶が身に付きません。

では、必要性を感じない子どもたちに、どのように挨拶を身に付けさせたらよいのでしょうか。

一つ目は、挨拶が日常的にある環境を作ることです。学校では、子どもたちが互いに声を掛け合えるようにあいさつ運動に取り組んでいます。家庭や地域では、大人が手本を見せていかなければなりませんね。

二つ目は、意味はさておき、型から教えることです。全校集会では「さいこうの挨拶」をしようという話もしました。これは、あいさつ運動でも生かせそうです。

- さきに (自分から先に)
- いきをすって (息を大きく吸って)
- こえをはって (声を張って、大きな声で)
- うれしそうに (笑顔で)

あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ
道具を大切に使う	運	審判さんへの態度
プラス思考	応援される人間になる	本を読む

三つ目は、必要性が分からなくても、挨拶の効果を伝え続けていくことです。全校集会では、右のようなマンダラチャート子どもたちに提示しました。これは、目指すものを9つの枠の真ん中に書いて、それを達成するために取り組むことや意識することを周りの枠に書いていくものです。ある人が、自分の運を高めるために意識することを整理したものが右の図です。左上に「あいさつ」があり、その下に「道具を大切に使う」があります。誰が書いたものかわかりましたでしょうか。答えは、大谷翔平選手です。MLBで大活躍している大谷選手が、高校生のときに書いた目標達成シートの一部を提示しました。大谷選手が運を手に入れるために取り組んだ挨拶が、今の活躍に生きているのかもしれないことを子どもたちに話しました。

学校・家庭・地域で取り組む挨拶の取組による成果は、すぐに表れるものではありません。子どもたちが大人になったときに、自然に挨拶ができるようになることを願い、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

体のケア	サプリメントを飲む	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事 夜7杯 朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的を持つ	一喜一憂しない	頭は冷静に 心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	雰囲気 に流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を 思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナー キャッチ ボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウント ボールを増やす	フォーク 完成	スライダーのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	奥行きをイメージ

すまいる

<すまいるの目標>

なかよく
すすんで
さいごまで



すまいる学級は、一人一人に合わせて学習を進めています。よさを認め、できることを増やし、最後まで頑張る力を育てています。国語や算数などの学習だけでなく、人とのコミュニケーションスキルの練習もしています。

なかよし交流会 ～10月1日(火)～

春日小学校と高志小学校の特別支援学級の児童が「ボッチャ」というスポーツを行い、交流を深めました。温かい言葉を伝え合いながらコミュニケーションを取り、人とのかわり方を学ぶよい機会となりました。



小学校最後の交流会でした。私は、班長として班の人を整列させたり声を掛けたりしました。ゲームの時、「頑張って!」とみんなで応援しました。とても楽しい交流会でした。(児童感想より)

赤と青のボールを投げて競いました

かけはし遠足 楽しかったね

春日小では、1年生から6年生でかけはし班を作り、異学年交流をしています。班で一緒に掃除を行ったり、遊んだり、日々の学校生活の中で仲間の絆を深めています。

9月20日(金)に、秋晴れの青空の下、かけはし遠足を開催しました。校区の公園や広場を目指し、班長が中心となって元気に歩きました。公園や広場では、「フラフープくぐり」や「エブリバディアップ」、「だるまさんが転んだ」などをし、みんなで楽しく遊びました。



みんなで一緒に立てるかな



真剣勝負のだるまさんがころんだ



何秒かかるかな?



みんなで食べるとおいしいね

